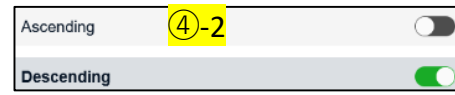
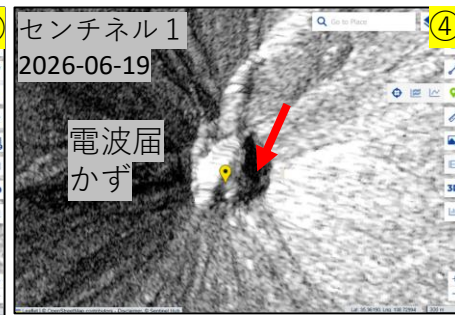
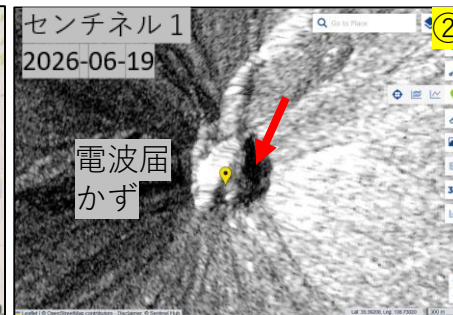
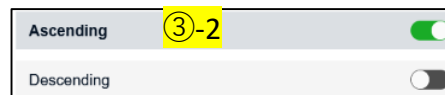
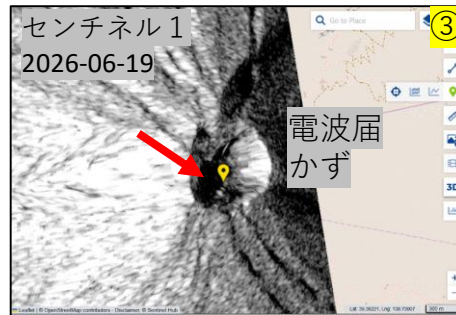


2026年6月27日

YACかわら版726

富士山 2

センチネル 1



6月19日富士山周辺の観測結果はどのように表現されているのでしょうかと終えました。

コペルニクスブラウザで富士山にマークを置き、センチネル1A・1Dの観測の重なりを探っています。

衛星進行方向を設定することで、重なっていた観測画像表示を変更できます。①

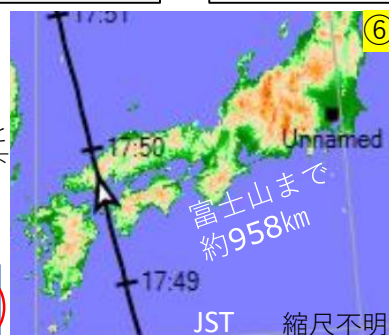
富士山の火口周辺を拡大し、影の位置に注目します。センチネル1Aは富士山の東方の太平洋上から観測します。⑦

電波が届かなかった場所が暗く見えます。火口にも注目です。④

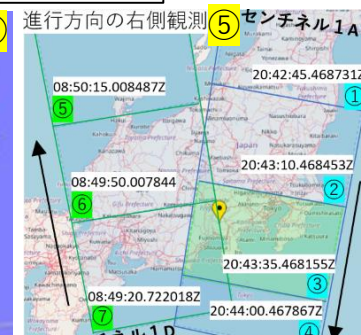
センチネル1Dは、四国西部を北上しながら観測しています。富士山の東側に暗く見えるところがあります。火口の暗い場所は、センチネル1Aの反対側です。③
コペルニクスブラウザが、センチネル1観測データとして観測の重なっている場所を表示してるのは、どうやらセンチネル1Aのデータの様です。②

ランドサット8-9やセンチネル2等の光学衛星の観測データを扱うときには、太陽の位置を確認する必要があります。センチネル1等のSAR衛星のデータでは、観測が上昇・下降データなのか確認する必要があります。

コペルニクスブラウザでは、観測データをふんだんに選択できます。重なっている場所が会場の場合、船舶を目印にすると観測データの重なりを一層興味深く確認できます。



©heavens-above.com



©heavens-above.com

6月19日の観測を調べてしばらくして、6月25日のセンチネル1の観測データをみて驚きました。3つの観測がデータが重なっています。

観測範囲の傾きの端の傾きで、上昇・下降観測の判断はできますね。分析にチャレンジしてみませんか。

3つの観測衛星名と、松阪市の観測時刻を探してみませんか。

